

令和6年能登半島地震被災港湾施設復旧技術検討会（第2回） 議事録概要

日時等：令和6年3月7日（火） 13：00～15：00（WEB方式）

1. 主な議事

- 事務局より、被災した係留施設の現地調査結果をもとに被災状況及び被災メカニズムを整理し、復旧設計の考え方、復旧設計方針（素案）等について意見交換を行った。

2. 主な意見

- （1）復旧設計の考え方及び復旧設計方針（素案）について
 - 被災状況の現状確認で「変状無し」とされている施設についても、変状が分かりづらい施設もあることに留意する事。
 - 主な被災状況として、地盤隆起や津波には触れているが、強い地震動が作用した点についても記載してほしい。
 - 他港では吸出しの履歴と地震時の液状化の複合的な作用で被災程度が大きくなった事例もあり、過去の吸出しの履歴を把握し、防砂板の状況を把握したうえで、復旧設計に活かすほうが良いと考える。
 - 鋼構造部材を再利用する場合は、詳しく応力状態を把握する必要があるため、「船舶の牽引力やL1地震動を考慮した場合、降伏応力度を超えると判断される鋼構造部材は再利用しない」という表現を盛り込むべき。
- （2）その他全般
 - 広域大規模災害の際の人員不足に備え、現地調査員が少人数でも、施設の使用可否判断が出来るよう、カメラ映像等を基に遠隔で支援を行える体制を構築するのが望ましい。
 - 今後の被災に備え、今回の復旧工事の際は、どのような材料を使ったかという情報（各種材料の品質証明等）を整理しておくことは重要。

3. まとめ

- 現地調査結果を基にした被災状況、被災メカニズム及び復旧設計方針（案）に対する意見を踏まえて、北陸地方整備局が各施設の構造断面の具体的な検討を進める。
- 第2回検討会の意見を基に復旧設計方針（案）を修正する。同修正（案）については、第3回検討会において決定し、その後、公表する。（年度内公表を予定）

－以上－